

全体目標：循環・呼吸管理を基本とした全身管理の知識・技能を習得した上で、各種外科手術や検査に対応した適切な麻酔法を選択し麻酔管理を担うことができる

個別目標：

	2カ月
1	患者の術前評価や ASA 分類を正しく行うことができる。
2	麻酔の手順やそれに伴うリスク・合併症について適切に説明することができる。
3	各種外科手術や検査に対する適切な麻酔法を選択することができる。
4	以下の手技について、①適応の判断、②手技の実施、③効果判定や合併症への対処、を行うことができる。 末梢静脈ラインの確保、侵襲的動脈圧ラインの確保、気管挿管、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、中心静脈穿刺、各種末梢神経ブロック
5	挿管困難が予想される患者に対し、気道確保に関わる適切なプランを立てることができる。
6	低血圧、高血圧、不整脈に対する急性期の循環管理を行うことができる。
7	各種輸液療法、輸血療法の適応とリスクについて説明することができる。
8	動脈血液ガス分析値を解釈し補正することができる。
9	手術中の患者において電解質、血糖管理を適切に行うことができる。
10	手術中の患者において体温管理を行うことができる。
11	急性疼痛患者に対する適切な対応を取ることができる。
12	人工呼吸管理の適応を理解し、人工呼吸器の基本的な設定を行うことができる。

方略：

- ・上級医の指導のもと、毎日 1～2 名の麻酔患者に全身麻酔を行う。
- ・担当麻酔症例の問題点と対策を把握し症例提示をする。
- ・2～3 か月に一度、朝のカンファランスで最新の英語文献を約 10 分間にまとめて発表する。
- ・症例検討会に出席し問題症例や合併症を生じた症例のプレゼンテーションを行う。
- ・毎週水曜日夕からのレジデント・カンファランスに出席し、初期研修医に必須の知識や状況判断を身につける。
- ・その他、英語文献や英語教科書の抄読会に積極的に参加し、機会を見つけて全国学会で発表する。

評価：

- ・EPOCⅡによる評価を行う
- ・修了時に評価表（研修医の経験内容等に関する自己評価および麻酔科の指導体制等に関する評価を記載）を提出する。評価表は麻酔科のスタッフ、シニア以上のレジデント全てが共有する。
- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う（適宜）。